

### 小学校英語授業の諸要件

----- 8年間の電子授業実践\* に踏まえて-----

田淵 龍二 (ミント学習教室)

マイク キャネヴァリ (マイイングリッシュ)

1

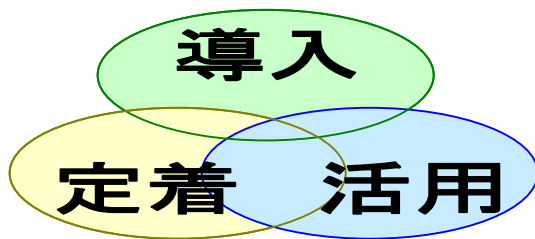
----- はじめに -----

電子黒板を利用した小学校英語授業の諸要件を考察するにあたり、まず 電子授業を因数分解した。

- 1: 授業展開の3つの段階 = 導入、定着、活用
- 2: 言語習得の3つの要素 = 音声、意味、文字
- 3: 表現活動の3つの成分 = 単語、表現、気持ち
- 4: 教材教具の3つの業種  
= ハード、ソフト、コンテンツ
- 5: 教育現場の三項関係 = 教師、生徒、事物

2

#### 1: 授業展開の3つの段階



**【日本語に拠らない習得、英語は英語のままで】**

3

導入： 単語や表現や概念などの新規情報の提示。  
定着： 記憶に留めることで、反復練習が必要。  
活用： 具体的な活動。アクティビティと言われる。

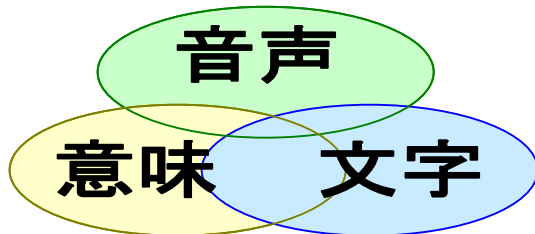
日本語に拠らないで、子どもの統語能力を引き出すことを可能にする電子教材。ただし、これは日本語の使用を制限しているのではなく、英語を日本語で解説することを最低限に抑えることを求めている。

- × 小学校の英語活動はこのPPP(提示・練習・表出)のように、モデルとなる英語を提示し、練習させるというものではない。( 卯城祐司 筑波大学 )  
アクティビティ重視が近年の流行であるが、その余り反復練習を軽視する傾向が強すぎる。ストレスフリーで効果的な練習法が電子教材で可能となる。

凡例 ( 解題、× 批判対象、 批判と解決法 )

4

#### 2: 言語習得の3つの要素



**【音声重視、字音義一体、先音後字】**

5

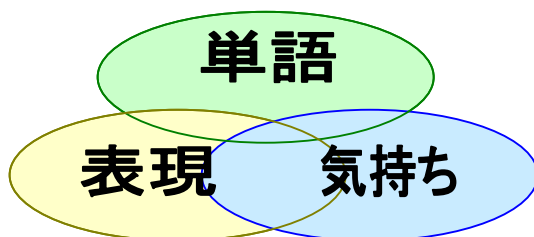
音声： 模範とするネイティブの声。  
意味： 音声の意味はもっぱら絵や映像による。  
文字： 音声を書き記したもの。

「音声重視」は「音声だけ」ではない。子どもの知的発達に即して声や字をバランスよく提供すること。声と字には必ず意味を同時に提供することが肝要。

- × 中学生が英語を嫌いになる第一の原因は、文字に対する抵抗である。小学校においては、この文字のハードルをできるだけ遅らせる配慮が必要になる。( 影浦攻 鹿児島純心女子大 )  
これはダチョウの政策(自己欺瞞の逃避)。必要な配慮は「遅らせる」ことではない。電子教材を使うことで文字導入のハードルを下げるのが可能となる。

6

#### 3: 表現活動の3つの成分



**【その気にさせる 心語文兼備】**

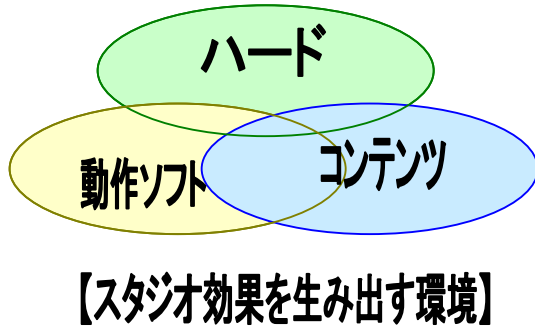
7

単語： 語彙。語句。  
表現： 文。構文。句型。文法。  
気持ち： 伝えたい感情や意志や思考内容。

- 子どもたちに「表現したい」と言う気持ちにさせる道具として、マルチメディア電子教材は最適。  
× 英語の単語や表現を「覚えること」を強要されたが、英語活動では「忘れていい」を常識として「楽しむこと」に重点を置いている。( 影浦攻 宮崎大学教授 )  
従来の学習法では「単語 / 表現 / 気持ち」が対立的に議論されがちだが、電子教材の反復練習力と、絵や動画を使った意味の提示力が、表現活動の幅を広げる。「その気」になった生徒が詰まったときに、タイムリーに英語を提供することを、電子教材は可能にする。

8

4: 教材教具の3つの業種



9

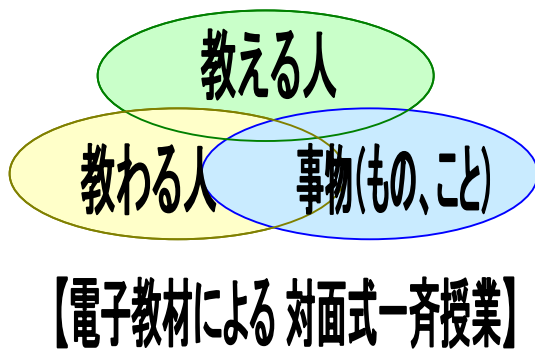
ハード： コンピュータや電子黒板などの器材。  
動作ソフト： 音や字を提供する操作機能を持つソフト。  
コンテンツ： 音声や文字などからなる教材。

どんなすぐれた電子機器でも教材がなければ、ただの箱になってしまふ。教室で使いたい教材が電子化されるシステムを構築するためには、ハード/ソフト/コンテンツの分離が必要条件。

従来型ソフトは、ソフトとコンテンツが一体で、汎用性・編集性に乏しい。クラスの実状に合せた臨機応変な利用は無理。また、教材ごとに操作パネル(インターフェイス)が異なり、教材が変わるたびに操作方法を学ばなければならないが、ハード/ソフト/コンテンツの分離で、統一的な利用が可能となる。

10

5: 教育現場の三項関係



11

教える人： 教師、先生。

教わる人： 児童生徒。

事物(もの、こと)： 単語や表現、概念などの教育内容。

黒板とチョークによる従来型の授業が、電子教材だからといって変わることはない。

ある小学校でのやり取り

・ A先生「プレイヤーミントで個別にトレーニングさせるのがいい」

・ 校長「今は 教師が教えることに意味がある」

習得させる言葉(おと)と事物(もの、こと)の関係は、教える人(教師)の頭の中から発せられて、相手(生徒)の頭の中へと伝えられる。電子教材は、その仲立ちをしているだけである。

12

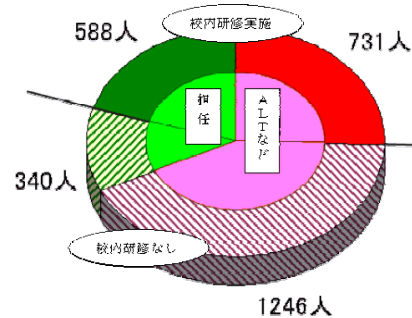
必修化を控えた 小学校現場がかかえる問題

- 1) 主な指導者である学級担任の英語力不足
- 2) ALT や外部指導者任せの授業
- 3) 実施時間数の学校間格差

こうした現状が 必修化で どう変わる？

13

しかし、研修はほとんど行なわれていない！



ベネッセ調査(2006)

14



ALT任せから 担任中心へ

15

電子教材の利用が 担任力を引き出し 担任中心の授業運営を可能にする



担任が自立するための手がかりとしての電子教材

16

## 電子授業5つの観点、15因子から 教育現場の諸様相を見直す

- 1: 授業展開の3つの段階 = 導入、定着、活用
- 2: 言語習得の3つの要素 = 音声、意味、文字
- 3: 表現活動の3つの成分 = 単語、表現、気持ち
- 4: 教材教具の3つの業種  
= ハード、ソフト、コンテンツ
- 5: 教育現場の三項関係 = 教師、生徒、事物

17

### 事例1

CDやDVDを使っているのに、うまく行かない

うまくいかない理由を以下の2方面を軸に考える

- A) 言語習得の3つの要素 = 音声、意味、文字
- B) 教育現場の三項関係 = 教師、生徒、事物

18

### 事例1 - 原因

- A) 【字音義一体】が崩れている
  - ・ 音の意味を理解できていないのに、視聴させつづけていませんか？
  - ・ テキストを見せながらCDを聞かせているのなら、読んでいる位置を目で追えなくなっていないですか？
- B) 【三項関係】が失われている
  - ・ 教師が教えたい部分を的確に提示するのではなく、視聴させつづけていませんか？

19

### 事例1 - 解説

- A) 【字音義一体】が崩れている
  - ・ 音を聞いて意味がわからないことが続くと、注意力は持続しないし、いやになる。
  - ・ 音を聞いていて何かな？と思った瞬間に、テキストの文字と音がばらばらになる。
- B) 【三項関係】が失われている
  - ・ DVDを見て何を学ばばいいかを生徒任せにした途端に、クラスが分散する。
  - ・ 同じ物を2度見ると飽きるのは当然。

20

### 事例1 - 対策

- A) 【字音義一体】を取りもどす
  - ・ 音声と同時に(あるいは直前直後に)その意味を絵や文字の視覚情報で伝える。
  - ・ 朗読位置の文字や絵を視覚的にハイライトして的確に伝える。
- B) 【三項関係】教師が手足口を動かす
  - ・ 教えたい部分を教師がしっかり指示したり反復再生する。教師が動けば、同じメディアでも飽きることはない。

21

### 事例1 - ソリューション

- A) 【字音義一体】
  - ・ 音声と同時に絵や文字をピンポイントで提供できる電子教材を利用する。
- B) 【三項関係】
  - ・ 教師が教えたい単語や表現の部分だけを的確に再生可能な電子教材を利用する。

これにより、たとえ電子機器を使っている、生徒は常に、教師から情報提供を受けることとなる。

22

### 事例2

活動で生徒がいつも同じ表現しかしない

理由を以下の2方面を軸に考えてみる

- A) 授業展開の3つの段階 = 導入、定着、活用
- B) 表現活動の3つの成分 = 単語、表現、気持ち

23

### 事例2 -

ここは練習課題とします

みなさんそれぞれ原因と対策を話し合ってみましょう

\* 電子授業にはプレーヤーミントを搭載した m-Boxed、movie-Boxed kids(ミントアプリケーションズ株式会社のHDDユニット)収録の電子教材を利用

24